

年中行事にみる多民族社会「アメリカ」

広島県広島市立安佐中学校 梶 典之
山口県防府市立富海中学校 石丸 義臣
山口県立宇部高等学校 野村 卓也

1 教材開発の意図

祝祭行事や年中行事はどのような社会にも存在し、その社会の構成者は、それらに参加することにより、その社会固有の、考え方・感じ方・行動様式を共有している。そして、それらを共有し伝承していく過程で共同体が持つ伝統的価値観が形成されるのではないか。私たちのチームは日米の伝統的価値観に着目し、双方の伝統的価値観が理解できるような教材の開発を試みた。開発にあたっては、日米の年中行事を様々な視点から比較しその共通点や相違点を探ることにより、双方の伝統的価値観が考えられるような構成を意図した。

取り上げた伝統行事や民族独自の行事をまとめると、以下のような表になる。

アメリカ合衆国	ハローウィン	サンクスギビング	インディアン	黒人
日本	盆	秋祭り	アイヌ	在日韓国 朝鮮人

比較の視点＝由来・意義、祝い方、伝承方法

2 教材の活用にあたって

本教材は、日本人中学生3人組の旅行記になっている。3人は旅行の途中でアメリカの行事についていろいろ調べ、日本と比較しながら様々な疑問をもち、それらを解決していくような構成になっている。会話の中に、学習課題として取り上げることのできる疑問点が織り込まれている。また、3人を指導してくれるアメリカ人の言葉の中には、そのまま発問としてつかえるものもある。

ハローウィン・サンクスギビングなど代表的な年中行事からは、日本と共通する「感じ方・考え方・行動様式」を考えることができる。また、インディアンや黒人などの行事からは、多民族社会の問題点や少数民族の人権問題などを考えることができる。

活用方法としては、会話の部分を抜いて写真や囲み記事だけで授業を展開することも可能である。また、会話から様々な予想をしたり仮説を立て、囲み記事から検証していく方法なども考えられるので、多様な活用方法を工夫されることを希望する。

僕たちのアメリカ旅行記

ぼくはマルチャン。中学校2年生です。ぼくはアメリカにペンフレンドがいます。彼女の名前はクリスです。今年の夏休み、ぼくは友達2人とクリスの家にホームステイすることになりました。先週、そのクリスが写真をおくってくれたので、友達の卓ちゃんと典ちゃんにも見せました。

「これがあの有名なハローウィンか。」

「かぼちゃのちょうちんなんて、おもしろいね。」

「いろいろ仮装してるけど、日本でもあんな仮装をする祭があったっけ？」

「日本でもお面とかをかぶって踊るじゃない。」

「そうだね。秋田の『なまはげ』なんかも恐い格好してるもんね。」

「聞くところによると、ハローウィンは死者の霊を祭るための行事らしいよ。」

「へええ。じゃあ日本のお盆の行事と似ているね。」

「日本の行事とアメリカの行事を比べると、けっこう似ているところがあるね。比べてみるとおもしろいかも知れないね。」



ハローウィン



お盆の精霊流し

— Halloween ハローウィン —

キリスト教徒がケルト族の信仰の影響で死者の霊を祭ることにした、All Saint' Day (万聖節) が11月1日に行われ、その前日10月31日の夜に行われるのがハローウィンです。この風習は19世紀にアイルランドからの移民が持ち込んだもので、死者の魂を迎え悪魔を追い払うために様々な工夫をします。玄関に十字架を描いたり、かぼちゃをくりぬいてお化けちょうちんを作ったりします。子どもたちは、魔女や幽霊などの衣装で変装し、Trick or treat! (おいしいものをくれないといたずらするぞ) と言いながら各家庭を訪問します。家の人は、菓子などをやって、退散してもらうことにしているので、子どもたちにとっては最も楽しい行事のひとつになっています。

お盆

お盆は、8月13日～16日ごろ日本各地で行われる先祖の霊を祭る行事です。あの世から精霊を迎えるために火を焚いたり、仏壇には盆提灯などが掲げられます。神社では盆踊りが催され地域の人々が参加します。精霊があの世に帰る16日ごろには、おくり火を焚いたり、写真のように精霊の宿る小舟にろうそくを焚いて川に流したりします。地域によっては、収穫を祈ったり、厄払い（悪い神様、悪魔のようなものを追い払うこと）の意味も持っているようです。写真は、山口県防府市の佐波川で行われている精霊流しのようすです。

写真を見て、アメリカの年中行事に興味を持った僕たちは、アメリカで有名な行事について調べることにしました。

アメリカ旅行の記録

成田を出発して、10時間くらい経ったとき、飛行機の窓のブラインドをあけると雲の上に、真っ白な雪をいただいた山々が、南に向かって連なっていました。それがあのロッキー山脈でした。そして、3時間後には、飛行機はデトロイトに着きました。デトロイト空港では、いろいろな大きさの飛行機が頻繁に飛び交い、飛行機を利用する人の多さにも驚きました。ここで飛行機を乗換え、ノースカロライナ州に向かいました。飛行機は、州都ローリーの空港に着き、そこから、クリスの住むグリーンビルまで、バスで2時間かけて移動しました。



バスの窓からの景色は、松林やたばこ畑、大豆畑が延々と続き、とにかく山らしきものは、まったくみられませんでした。森や小高い丘はあるのですが、それ以外は見渡す限り地平線でした。日本では考えられない風景にただただ驚くばかりでした。

グリーンビルに着いた僕たちは、さっそくクリスの案内で、この地方の祭について調べることにしました。イーストカロライナ大学（ECU）のライリー教授がいろいろと教えてくださいました。

「教授、ハローウィンやサンクスギビング、クリスマスの由来を教えてください。」

「ハローウィンやクリスマスは、もともとヨーロッパのキリスト教の祭なんだ。ヨーロッパからアメリカに移住してきた人たちが広めたんだよ。」

「移住？」

「そうだよ。アメリカには今もたくさんの人が移住してきているんだよ。」

「そういえば、空港でもいろんな肌の色の人や髪の色が違う人がいたね。顔つきもずいぶん違っていたね。」

「そうだね。しかし、ヨーロッパとアメリカは遠いよね。どうして、わざわざ移住したのかな？」

「それも不思議だけど、じゃあもともとアメリカには誰が住んでいたのかな？」

「疑問だらけになってしまったね。では、私がアメリカの歴史を説明してあげよう。下の資料をよく見てごらん。」

年 代	で き ご と
前2500～ 前1200	最初の移住者（インディアン）がアジアから流入
1 4 9 2	コロンブス、アメリカに到達
1 6 0 7	イギリス人、ヴァージニアに植民を始める 黒人奴隷が西アフリカから連行されてくる
1 6 2 4	オランダ人がニューネーデルランド植民地を建設する
1 7 1 8	フランス人がニューオーリンズを建設する
1 7 6 9	スペインがカリフォルニアを植民地化する

「いろいろな民族がアメリカに移住してきたんだね。」

「アメリカに住んでいる黒人の多くは、奴隷としてアフリカから連れてこられたんだよ。」

「じゃあ黒人たちは、アフリカの伝統を受け継ぐ祭をやったりしないのかなあ。」

「そうだね。黒人の祭って聞いたことがないね。」

「そうだね。アメリカに来た黒人たちは、キリスト教の影響を受けて、キリスト教を信じるようになった人もいるんじゃないかな。」

「そうかもしれないね。でも、黒人奴隷の人は寂しくなかったのかなあ。教授、どうなんですか？」

「君たちが自分たちの祭や文化を失うとしたら、どんな気持ちになるだろうか。」

「ううん。僕たちにはそういう経験がないからわからないなあ。」

「では、1966年に始まった『クワンザ』という祝日を紹介してあげよう。何かわかると思うよ。」

僕たちは、ライリー教授の紹介で、『クワンザ』という黒人の祝日に詳しい、フォックス先生をたずねました。先生は、地域の中に入って『クワンザ』の運営や企画にも参加しておられるようでした。

「この行事は、1966年にカリフォルニア州立大学のカレンガ教授によって始められた祝日で、黒人の家族や、黒人文化を祝うことが目的なのよ。『クワンザ』とはスワヒリ語で『初物』という意味で、アフリカの多くの地域で初物を祝う習慣があることにちなんでこの名前がつけられたのよ。」



フォックス先生

「へえ。じゃあこの祭はまだ30年ぐらいの歴史しかないんだね。」

それから、フォックス先生はこの祝日の内容を詳しく説明してくださいました。

クワンザ

クワンザは、1966年にカリフォルニア州立大学のマウラナ・カレンガ教授によってつくられたもので、アフリカンアメリカンの伝統や価値観を学習し、彼らに固有の黒人文化を祝うものとして始められた。『クワンザ』とはスワヒリ語で「初物」を意味し、アフリカのほぼ全土で行われるこの初物を祝う風習にちなんで、カレンガ教授が命名した。期間は12月26日から1月1日までの7日間で、それぞれの日に以下の7つの原則を誓い合う。

- 1日目＝ウモジャ（団結）
- 2日目＝クジチャングリラ（自律）
- 3日目＝ウジマ（協調）
- 4日目＝ウジャマ（経済協力）
- 5日目＝ニア（目標）
- 6日目＝クンバー（創造）
- 7日目＝イマニ（忠誠）



家族は、毎晩それぞれの原則について語り合い、黒・赤・緑のろうそくに火をつける。そして、キナラと呼ぶ7本立ての燭台に掲げることによって、その原則に光と命を与える。12月31日の夜には、コミュニティにおいて多くの家族が一同に会しカラムと呼ばれる祝宴に着く。装飾には、アフリカを象徴する、赤・黒・緑が使われる。そして、大人も子供もこの夜には、アフリカの民族衣装を身につける。

「12月だったら、クリスマスもあるよね。黒人の子どもたちもプレゼントの交換なんかをするのかなあ。」

「まあよ。クリスマスがあるのになぜ新しい祝日を作る必要があったんですか？」

「難しい質問だわ。アフリカンアメリカンの中には、強い無力感に支配されている子がいるのよ。彼らは、やればできるという気持ちや、将来への夢や希望を失っている。」

「どうして、そんな状態になるんですか。」

「いろいろな理由があって一概には言えないと思うけど過去の歴史において、黒人の中には民族の伝統文化や、民族としての自覚や誇りを失っていった人がいるのよ。だから、その自覚や誇りを取り戻すためにも、黒人のルーツであるアフリカのすばらしい伝統や文化をもう一度よく知るためにも、このクワンザがはじまったのよ。」

「日本にも、同じような問題があるのだろうか。」

「日本にも外国人はいるよね。一番多いのは、在日韓国・朝鮮人だという話を聞いたことがあるよ。」

「あの人たちは、なぜ日本に住んでいるのかなあ。」

「わからないなあ。僕たちは日本のことを何にも知らないね。惜けないなあ。」

— 在日韓国・朝鮮人 —

1910年、日韓併合条約が結ばれ、日本は朝鮮半島を植民地としました。このころから、多くの朝鮮半島の人々が日本に移住してきました。日本の植民地支配のために土地を奪われた人や強制的に日本に連行された人もいました。そして戦後、母国に帰ることができず、日本で生活する事を余儀なくされた人々が「在日韓国・朝鮮人」なのです。その人数は、日本に帰化した人も含めるとおよそ85万人くらいになると推定されます。彼らには、外国人登録法により、写真、署名、家族関係の登録が義務づけられており、永住者以外は指紋押捺の義務もあり、人権侵害だという声があがっています。また、日本国籍を有していないので、選挙権も認められていません。就職居住の面でも差別的扱いを受けることがあり、多くの人権問題が起こっています。

フォックス先生の話から、僕たちは多民族社会アメリカのかかえる問題を垣間見たような気がしました。

それから僕たちは、クリスの親戚があるミネソタ州のミネアポリスに行きました。クリスのおぼさんのキャシーさんが迎えてくれました。ミネソタ州はインディアンのリザベーション（保留地）が数多くある所で、ぼくたちはミネアポリスから北に車で2時間ぐらいの所にある保留地を尋ねることにしました。

「きれいな湖がたくさんあるね。」

「ミネソタの意味を知ってる？」

「知らないよ。」

「インディアンの言葉で、“水に色づけられた空”という意味なのよ。」

「なるほど。確かにこの景色を見るとわかるね。」

「北アメリカの地名には、インディアンの言葉に由来するものがたくさんあるのよ。」

「日本の北海道とよく似ているなあ。」

「それ、どういうこと？」

「北海道の地名には、アイヌの言葉に由来するものがたくさんあるんだよ。」

「そうなのか。僕は何にも知らないんだなあ。」

インディアンの由来する アメリカの地名	アイヌ語に由来する 北海道の地名
アリゾナ=「小さな泉の湧く所」 オクラホマ=「赤銅色の人」 オハイオ=「美しい川」 ミネソタ=「水に色づけられた空」	札幌=サリポロペツ「湿地を流れる大事な川」 石狩=イシカリベツ「曲がりくねった川」 知床=シルエトク「大地が頭をつきだす」 稚内=ヤムワッカナイ「冷たい飲み水の川」

目指すリザベーションは、国道からかなり離れた所にある州立公園を奥深く入った、美しい湖の側にありました。とても美しい所ですが、冬場はかなりの積雪があるようです。今はインディアンはここには住んでいなくて、史料館やキャンプ場がありました。史料館には、インディアンの家の模型や狩の道具が展示してありました。それから国道沿いの彼らの集落を尋ねました。



史料館から見たリザベーション

途中で、インディアンの保留地に建設が認められているカジノを見学しました。

学校に行けばいろんな事がわかると聞いた僕たちは、この地域の学校を訪問することにしました。学校は、森の側にあって、とても新しい建物でした。夏休みで、生徒はほとんどいなかったのですが、校長先生にお会いすることができたので、いろいろ質問しました。

「こんにちわ。とても新しい建物でびっくりしました。史料館にあった昔の家とは全然ちがいますね。」

「この学校は、去年新しく建設されたばかりなんですよ。この地域もずいぶん変わってきたからね。」

「先生。この地域が変化してきたというのは、どういうことですか？」

「過去においてインディアンは苦しい生活を強いられてきたんです。この村もそうですよ。でも国道沿いに、カジノができて、生活は変わってきたね。あそこで、このインディアンの多くが働いているんだよ。あのカジノの収益金がこの建設費用に当てられたんだ。お店や病院もカジノのおかげでできたんだよ。」

「思い出したぞ。ライリー先生からアメリカの歴史を教えてもらったとき、インディアンのこともでてきたじゃない。」

「では、学校の中を案内してあげよう。」

「ここが、玄関ホールだよ。」

「先生、星条旗の側の旗みたいなのは何かですか。」

「あれはね、この部族のシンボルとして大切にされている、旗のような物だよ。」

「月曜の朝はここでパイプセレモニーをするんだ。」

「パイプセレモニーって何ですか？」

「生徒たちは、ここに輪になって座り、自分自分の目標を口に出して誓うんだ。その後、タバコのパイプをほんの少しふかし、それを次の人にまわしていくんだよ。」

「どうして、そんな事をするんですか？」

「オジブウェ族は、パイプの煙は自分の分身だと信じていて、夢や希望はパイプの煙となって天に届けられると考えていたんだ。週の初めにこのセレモニーを行う事によって、部族の文化を学び、連帯感を強め、一週間がんばろうという気持ちになることを願っているんだよ。」

「いわゆる伝統的儀式の一つなんですね。」



「そうだよ。では、教室を案内しよう。」

「この教室は、オジブウェ族の言語を勉強する部屋なんだ。」

「へえ。なぜ生徒はオジブウェ語を勉強するんですか。」

「自分たちの文化の根幹である母語を大切にしようという事なんだよ。」

「先生。この窓にはってある言葉がそれなんですか。」

「そう。これが、オジブウェ語なんだよ。」

「へえ。ぜんぜんわからないや。」

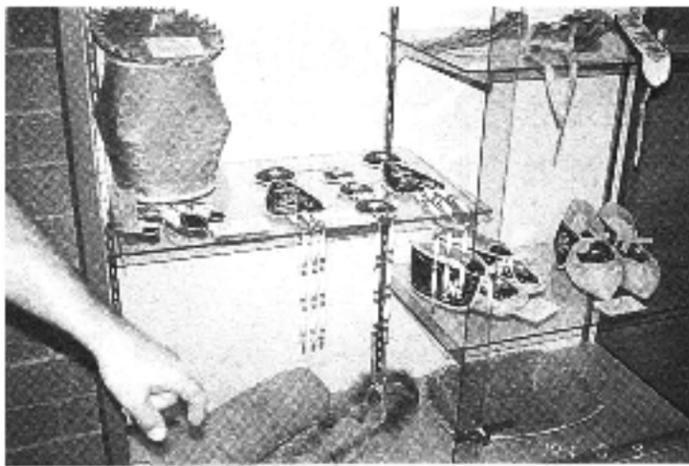
「君は、英語もちんぷんかんぷんなんだぜ。」

「先生、今日はいろんな事を知り、とても参考になりました。どうもありがとうございました。」

「いいえ。君たちのように、インディアンの歴史や伝統に興味を持つ子供がいることをとてもうれしく思います。日本の文化も大切にしてください。」

「わかりました。では、さようなら。」

学校には、インディアンの民族衣装やアクセサリー、道具も展示してありました。



オジブウェ語

アメリカ滞在最後の日に、クリスの親戚が、僕たちを食事に招いてくれることになりました。僕たちはサンクスギビングの料理を一度たべてみたかったのでリクエストしました。

「でも今は8月、感謝祭は11月の第四木曜日なんだから無理かなあ。」

「わかったわ。せっかく日本から来てくれたんだもの。明日は、季節はずれのサンクスギビングパーティーを開きましょう。」

「ラッキー。」

次の日、キャシーおばさんの家では、ご主人、お姉さん2人、4人の子供とそのいとこたち、近所の友達18名での大パーティーになりました。

「感謝祭のパーティーには、いつもこんなに人が集まるの。」

「アメリカでは、この日を含めて4連休になるので、遠くの家族が帰ってきたり、ふだん会えない親戚が集まったりするの。」

「そうか、日本でも盆や正月には遠くに行っている家族が戻ってきて家族団らんを楽しんだり、親戚が集まったりするね。行事を通して家族や親戚の絆を確認し会うところは日本もアメリカもおなじなんだね。」

ご主人がメインディッシュの七面鳥の丸焼きをテーブルの上で切り始め、続いているいろいろな料理が次々とテーブルの上に並んでいきました。

「すばらしいね。270年も続いた行事の料理だから何か意味があるんだろうね。」

「感謝祭って、何に感謝するのかなあ？」

「そうね。感謝祭の由来がわからないと、今日の料理のメニューの説明をしても意味がないわね。じゃあ感謝祭の歴史を説明してあげましょう。17世紀初めにイギリスからやってきた移民（ピルグリム）たちは、最初の厳しい冬を越し、インディアンたちの助けを受けながら秋には豊かな収穫を得て無事生き延びることができたの。そのお礼としてピルグリムはインディアンを招待し、一緒に食事をし神に感謝の祈りを捧げたのよ。そのとき用意された料理がターキー（七面鳥）やかぼちゃのパイなどで、今日の料理のもとになったの。それをきっかけにしてこの感謝祭がはじまったのよ。」



メニュー一覧

- ・ターキー＝七面鳥のまる焼き グレービーソースで食べる
- ・ビスケット
- ・ワイルドライス＝野生の米、マッシュルーム、オニオンをクリームで煮込んだ料理
- ・スイートポテト
- ・フルーツサラダ
- ・スタフィン＝パン、オニオン セロリ、の詰め物で、セージと塩胡椒で味付け
- ・つけもの＝ブラックオリーブ グリーンオリーブ
- ・クランベリーソース
- ・パンプキンケーキ

それから僕たちは、おなかいっぱいご馳走になりアメリカのお祭りを3カ月早く楽しむ事ができました。

「今日の料理一つ一つが、私たちの掛け替えのない文化的遺産なのよ。この行事や料理を通してアメリカの歴史的伝統を伝えて行こうと思うのよ。」

「日本にもそんなふうに伝統のある行事が残っていたっけ？」

「地方によっては残っているよ。これは日本の秋祭りの写真だけど、日本でもこうやって、秋の収穫を感謝し、子供たちが神輿をかついだりするんだよ。」

「ああ、だから秋には祭りが多いのか。料理も特別な物があるのかなあ？」

「あるさ。それからねえ、高校によっては、神楽のような伝統芸能を保存する同好会がある学校もあるんだよ。」

「へええ。日本にも伝統を大切にしている人たちがいるんだなあ。感心、感心。」

「ひとごとみたいに言ってちゃだめだよ。」

日本の秋祭りの料理

- ・新米を使ったすし（ご飯に酢をかけて野菜などの具と一緒に混ぜた物）
角寿司、巻き寿司、鯖寿司、稲荷寿司
- ・季節の魚の刺身
- ・秋のきのこを使った汁物
松茸、香茸
- ・新米のもち米を使ったもち
- ・ゆず、大根のすのもの
- ・かきなどの季節の果物



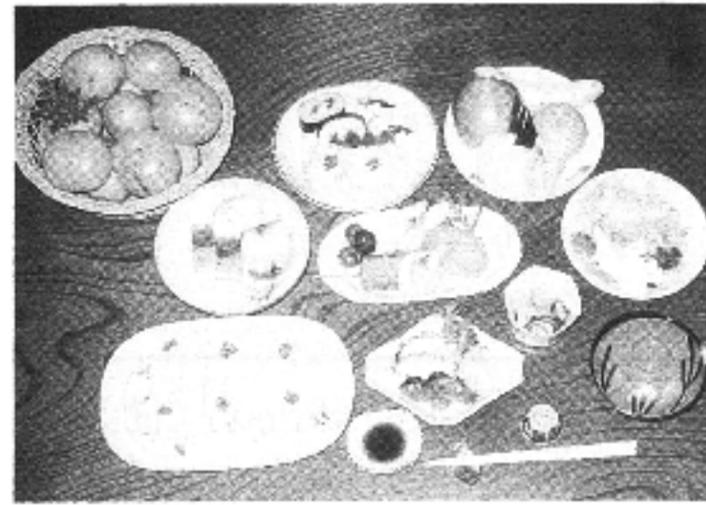
サンクスギビングパーティー



神輿をかつぐ子供たち



ワイルドライス



秋祭りの料理



ターキーの骨でゲームをする子どもたち



神楽を舞う高校生たち

パーティーの翌日、僕たちはアメリカをたちました。飛行機のなかで、みんなで思い出話をしているときの事です。

「ああ、忘れていた。ライリー教授から手紙をことずかっていたんだ。」

「そんな大事なことを忘れてどうするんだ。早くあけてみよう。」

卓ちゃん、典ちゃん、マルちゃん、元気ですか。アメリカでの2週間はどうか。僕も、君たちに会えてとても良かったと思います。君たちは、いろいろな民族が生活するアメリカ合衆国で、民族の伝統や誇りといったものを学んだことでしょう。日本とアメリカの違っているところや、共通するところがよくわかったと思います。

民族の正しい理解とは、まず自分自身を知り、自分自身と仲良くすることです。それが他民族を理解することにつながると思います。その結果、民族や人種の背景を越えて人々が交流できる社会が実現できるでしょう。

私が生きていながらその社会が実現できるといいんだがね。君たちの旅行記の完成を心待ちにしています。

3人はこの手紙を読みながら、ライリー教授やフォックス先生のこと、キャッシーおばさんの家でのパーティーのことなど、アメリカでの出来事を思い出していた。

「日本も最近は国際交流が盛んになって、外国からやってくる人が増えているんだよね。」

「じゃあ、日本も近い将来アメリカのような多民族社会になるのかなあ。」

「可能性はあるね。」

「困ったなあ。」

「卓ちゃん、どうしたんだ？」

「だってみんな言葉が違うんだろ。どうやって話をするんだい。それに、宗教や、習慣も違うんだろ。簡単には友達になれないよ。」

「確かにそうだね。ほんとに、ライリー教授の言葉のように、自分や自民族を大切にすることが、他人や他民族を大切にすることにつながっていくかなあ？」

「そんなに簡単なことじゃないさ。でも、可能性にかけるんだよ。教授だって、すぐ実現できるとは思っていないよ。教授は夢を僕たちに託しているんだよ。わかるかい。」

「ううん？」

それから、長い沈黙がつづきました。僕は、いろんな肌の色の人々でごった返す空港のロビーを思い出しながら、日本人とは何か、民族とは何かということについて考えていました。

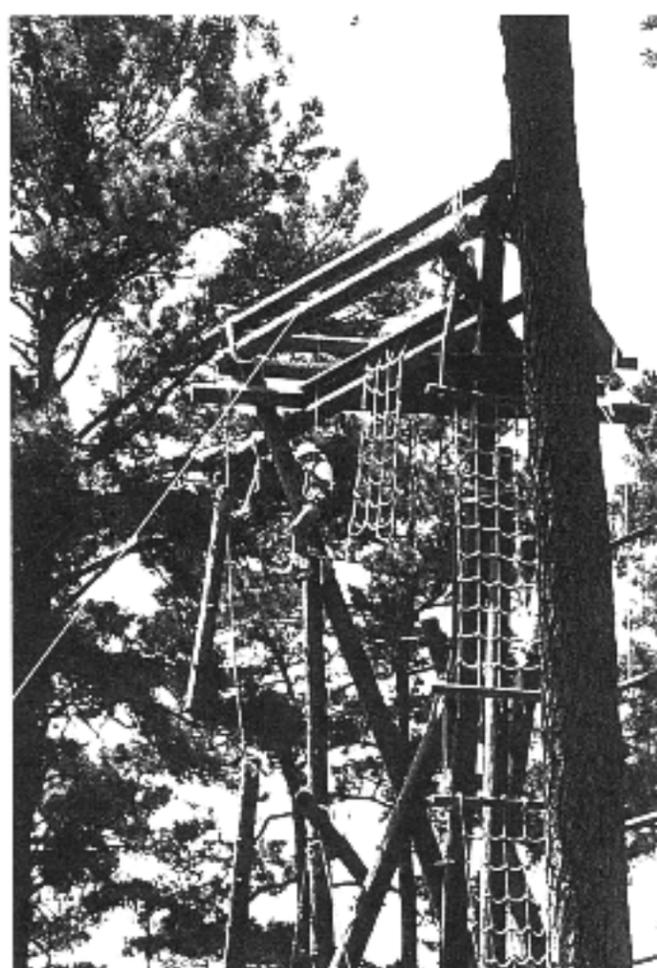
アナウンスでは、ちょうど飛行機が日付け変更線を越えたことを告げていました。

参考文献

- | | | |
|--------------------------|----------------|----------|
| 「アメリカの民族」 | 綾部 恒雄 編 | 弘文社 |
| 「ENCYCLOPEDIA RHETORICA」 | 梅棹 忠夫・江上 波夫 監修 | 教育出版センター |
| 「アメリカン・ホリデー」 | 大島 良行 | 東書選書 |

クイズで知ろう！
アメリカの高校生の夏休み

広島県立広島井口高等学校	増井 宏明
鳥取県日野町立日野中学校	松原 隆
鳥取県立境水産高等学校	景山 浩之



1 サマースクール（ミネアポリス）

アメリカの高校生の中には、夏休み中も授業を受ける生徒がいます。その授業を「サマースクール」と呼んでいます。ミネソタ州ミネアポリス市で行われている「サマースクール」に関する問題です。

Q1 「サマースクール」に通うのは、どのような生徒でしょうか？

- A 大学進学を目指している生徒
- B 自動車免許を取得するための講習を受ける生徒
- C コンピュータ操作など実用的な技能を身につけたい生徒
- D 数学・英語など進級に必要な科目の単位がとれなかった生徒

Q2 「サマースクール」が行われているのはどこでしょうか？

- A 生徒がそれぞれ通っている高校
- B 学区ごとに指定された高校
- C 学習塾
- D 生徒がそれぞれ進学を希望している大学



Q3 「サマースクール」の単位をとるために、のべ何時間の授業に出るのでしょうか？

- A 15時間
- B 30時間
- C 60時間
- D 120時間

Q4 「サマースクール」で行われている授業のうち、実際にはあまり行われていないものはどれでしょうか？

- A 有名な映画のビデオを観賞する。
- B 医者や裁判官などの外部講師の話聞く。
- C プリントで自習をする。
- D 毎日、その日の学習内容のテストを受ける。



Q5 生徒たちが「サマースクール」に来る手段のうち、最も多いのはどれでしょうか？

- A 自分の自転車
- B 自分のバイク
- C 自分の自動車
- D タクシー

(解 説)

「サマースクール」について、ラーソン先生がインタビューに答えて下さいました。

私はホスターマン・ミドルスクールでカウンセラーとして勤務しています。しかし、夏休み中は仕事がないため、クーパー高校の「サマースクール」で高校生を教えているのです。ここでは、クーパー高校やアームストロング高校を含む学区内の高校生が対象で、学年末の段階で単位未修得の教科がある生徒が参加することになっています。今年は約1000人の高校生が参加しており、この数字は2つの高校の生徒の約3分の1にあたるのです。「サマースクール」は前期と後期に分かれていて、7時半から12時半の5時間ずつ



12日間にわたって行われています。教科は、英語、社会、数学、理科、保健体育があり、このうち単位がとれなかったものを選択することになります。講義と自習が半々の授業で、計60時間のうち7時間半以上欠席すると単位はとれません。私たちは何とか生徒たちに興味をもたせようと一生懸命努力しています。例えば、有名な映画のビデオを観賞させたり、医者や裁判官、警察官といった外部講師を招いて話をしてもらったりです。それでも参加生徒のうち約3分の1は来なくなったり、単位がとれないという悩みがあります。

このように、「サマースクール」が開かれているクーパー高校には、他の学校からも生徒が集まるだけでなく、先生もいろいろな学校から集まります。生徒たちは、進級のための単位がとれなかった教科を学習し直して、ここで合格すれば単位がもらえるのです。また、生徒たちに興味を持たせるために、さまざまな職種の人々を外部から招いて話をしてもらうこともあります。また、自分の自動車で学校に来る生徒が多数を占めており、そのための広い駐車場があることも驚きの一つでした。

(正 解) Q1・D Q2・B Q3・C Q4・D Q5・A

2 クラブ活動（ミネアポリス、グリーンビル）

ミネソタ州ミネアポリス市のアームストロング高校にはアメリカンフットボールとウェイトリフティングの2つのクラブ活動があります。また、ノースカロライナ州のグリーンビル市にもアメリカンフットボールクラブがあります。それに関する問題です。

Q1 アームストロング高校アメリカンフットボール部の夏休み中の活動は、全部何日くらいあるでしょうか？

- A 約80日間（ほとんど毎日）
- B 約50日間（半分くらい）
- C 約20日間（5分の1くらい）
- D 約5日間（20分の1くらい）



Q2 アームストロング高校ウェイトリフティング部では、夏休み中の活動をどのようにして生徒に知らせるでしょうか？

- A 夏休み前のミーティング
- B ダイレクトメール
- C コーチからの電話
- D 新聞広告

Q3 アームストロング高校アメリカンフットボール部の指導者の職業のうち、実際にはないものはどれでしょうか？

- A 警察官
- B 裁判官
- C 大学教授
- D 高校教諭

Q4 ノースカロライナ州の法律の中で、実際にあるものはどれでしょうか？

- A 11月になったらフットボール・クラブの活動をしてはならない。
- B フットボール・クラブの活動をするためには、州に許可を申請しなければならない。
- C 女子はフットボール・クラブに参加してはならない。
- D 夜間はフットボールの練習も試合も行ってはならない。

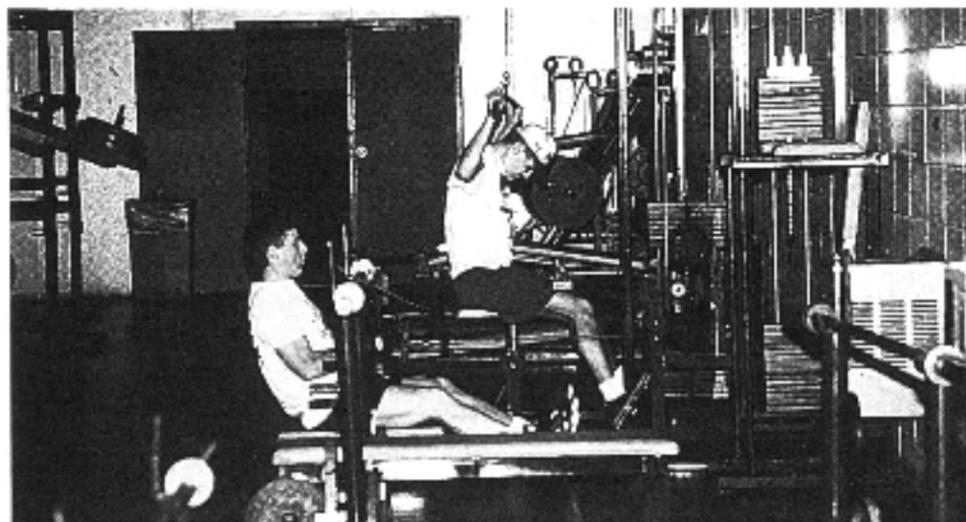
(解 説)

クラブ活動について、アンダーソンさんに聞きました。

僕は大学の4年生で、夏休みの間のアルバイトとして、このアームストロング高校のアメリカンフットボール部とウェイトリフティング部のアドバイザー・コーチをやっているんです。もちろん、正規のコーチも指導にあたっていますよ。

アメリカンフットボール部の練習は、8月15日から9月8日までやります。バカンスにでる家庭が多くて、そんなに長い期間はできないですね。時間は、8時から10時半までと13時半から16時までの、1日2回ずつあります。だいたい60～70人の生徒が参加してもいいことになっているんです。選手たちは、夏休み中に行われる州のオールスターゲームでの優勝を目標に練習に励んでいます。

それから、ウェイトリフティング部のほうは、約100人の生徒が参加していますが、彼らには夏休み中の活動内容を、ダイレクトメールで知らせたんです。



クラブ活動の指導をするコーチは、その高校の教師である場合もありますが、別の仕事を持ちながら、楽しみとしてやっている人もいます。グリーンビルのアメリカンフットボール・クラブがその良い例で、彼らの職業は警察官や裁判官・大学教授でした。

(正 解) Q1・C Q2・B Q3・D Q4・A

3 キャンプ（ノースカロライナ州）

ノースカロライナ州クレイバン郡で、キャンプ・ドン・リーとキャンプ・シー・ガルの2つの「サマーキャンプ」施設を訪ねました。それに関する問題です。

Q1 「サマーキャンプ」施設では、さまざまな活動の中から自分のやりたいことを選択できます。次のうち、キャンプ・シー・ガルにないものはどれでしょうか？

- A 登山
- B ゴルフ
- C ヨットセーリング
- D テニス

Q2 キャンプ・シー・ガルでは、4週間コースで食費、宿泊費、活動費のすべてを含めて、料金はおよそ何ドルでしょうか？（1ドル＝100円で計算）

- A 約17ドル（約1,700円）
- B 約170ドル（約17,000円）
- C 約1,700ドル（約170,000円）
- D 約17,000ドル（約1,700,000円）

Q3 キャンプ・シー・ガルには760人が宿泊できますが、参加資格をもつのはどのような人々でしょうか？

- A 高校生
- B 中学生・高校生
- C 小学生・中学生・高校生
- D 小学生・中学生・高校生・親



Q4 キャンプ・シー・ガルの全員が集まった昼食で、大変な盛りあがりを見せたアトラクションはどれでしょうか？

- A 映画の上映
- B コーラの早飲み競争
- C テレビゲーム大会
- D スタッフによるコーラス

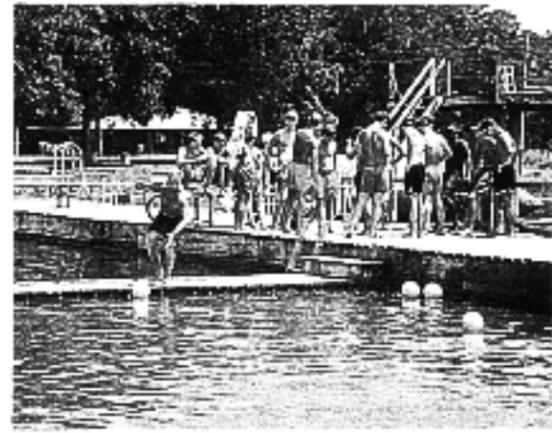
Q5 キャンプ・ドン・リーに滞在していたティーンエイジャーに聞きました。キャンプが楽しい理由で一番多かったのはどれでしょうか？

- A 新しい友達ができるから。
- B 新しい活動にチャレンジできるから。
- C 家とは違った環境で長期間過ごせるから。
- D 勉強をしなくてもいいから。

(解説)

キャンプ・シー・ガルは川辺の広大な美しいキャンプ地で、デ・ハートさんに案内をもらいました。

私はキャンプ・シー・ガルでプログラム責任者として働いています。ここは7～16歳の男子のためのサマーキャンプ施設で、YMCAが後援してくれています。近くには女子だけのキャンプ施設もあり、共同で活動することもしばしばです。ここにはロープコースをはじめとして、アーチェリー、テニス、プール、ヨットセーリング、さらにはゴルフができる大規模な施設があります。夏休み中のプログラムは、4週間コースで、料金は食費、宿泊費、活動経費をすべて含めて1,675ドルですね。宿泊のためのキャビンには最大760人が入ることができます。今は、高校生が100人くらいいるはずですよ。国の各地から集まった子供たちです。そういえば、日本からも1人参加していますよ。



キャンプでは、希望する活動によってチームが編成され、チームごとに一人ずつスタッフが付きまます。彼らスタッフは、自分たちも「サマーキャンプ」に参加してきて、そこでリーダーシップを学んだ経験豊かな専門家であり、子供たちの心をつかんで活動をもりあ

げます。たまたま見る事ができた昼食では、アトラクションとしてコーラスが披露されていました。

アメリカでは、このような「サマーキャンプ」に小さい頃から参加することが多く、どのキャンプを子供にすすめるか、親はたくさんの資料を集めその中から選び出す重大な責任があるとまで言われています。生徒たちもキャンプで新しい友達を見つけて、交流を深めることを楽しみにしているようで、キャンプ・ドン・リーでインタビューに答えてくれた生徒10人のうち8人もがそう答えてくれました。

(正 解) Q1・A Q2・C Q3・C Q4・D Q5・A

4 アルバイト (ミネアポリス)

ミネソタ州ミネアポリス市で、アルバイトをしているマイク君とジェイソン君の2人の高校生に出会って話を聞きました。それに関する問題です。

Q1 ミネソタ州の法律で、アルバイトが認められているのは何歳以上でしょうか？

- A 10歳以上
- B 12歳以上
- C 14歳以上
- D 16歳以上

Q2 右の写真は、マイク君が「バヤリース」という食料品店で「バッグボーイ」としてアルバイトをしている様子です。彼はその後どうするのでしょうか？

- A その場で客に品物をわたす。
- B 客の車のトランクまで運ぶ。
- C 客の家まで配達する。
- D 客が他の店で買い物をすませるまで品物を預かる。

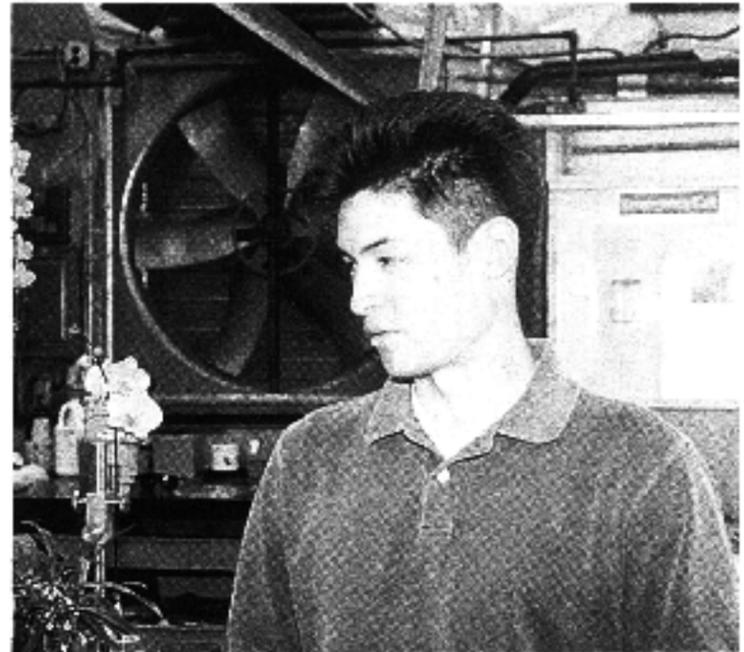


Q3 マイク君の時給はおよそ何ドルでしょうか？（1ドル＝100円で計算する）

- A 約3ドル（約300円）
- B 約5ドル（約500円）
- C 約7ドル（約700円）
- D 約10ドル（約1,000円）

Q4 ジェyson君は、父親の経営する蘭栽培農園でアルバイトをしています。彼の現在の仕事はどれでしょうか？

- A 水やり
- B 鉢の植え替え
- C 新品種の開発
- D 農園の責任者



Q5 2人がお金のつかいみちとして挙げたもののうち、実際にはなかったものはどれでしょうか？

- A デート代
- B 衣料費
- C タバコ代
- D 自動車保険料

Q6 2人の親は、アルバイトについてどう思っているのでしょうか？

- A 経験を積むためにも良いことだとすすめている。
- B 小遣いをわたさなくてもよいぶんとすかっているので賛成している。
- C 暇を持て余さないように、夏休みだけ特別に許している。
- D アルバイトよりも勉強をしっかりしてほしいが、しぶしぶ許している。

(解 説)

マイク君、ジェイソン君それぞれの話を聞いてみて下さい。

僕の名前はマイク・カーシュ、アームストロング高校の2年生です。僕は「バヤリース」という食料品店でアルバイトをしています。僕の仕事は「バックボーイ」といって、客が買った品物を袋に入れ、車まで運ぶというものです。学校のある時は週に3日間4時間ずつ働きますが、夏休み中は最大週に5日間5時間ずつ働いています。給料は時給5ドルで、税金を引くと月に約430ドルはもらいますね。お金は、衣類、デート、旅行、自分の自動車の保険などにつかっています。このアルバイトをしていて、客や上司とのつきあい方を学ぶことができ、将来のためのいい経験になっています。親もそうやってこの仕事をすすめてくれました。



僕はジェイソン・フィッシャーといいます。アームストロング高校に通っています。僕のアルバイトは、父の経営する蘭栽培農園で働くことです。7歳から仕事を始めて、最初は鉢の植えかえ程度でしたが、今では農園の責任者として仕事を任されているんですよ。学校のあるときは月曜から金曜の2時間ずつと、土曜に6時間働きますが、夏休み中は月曜から土曜の間6時間ずつ働きます。給料は時給5ドル25セントですね。お金はだいたい半分を貯金し、あとは衣類やデート、ステレオ、自分の自動車のガソリン代と保険などにつかいます。もちろん親はこのアルバイトに賛成で、将来は父の仕事を継ぎたいのでいい経験になっています。



2人に限らず出会った高校生のだれもが口にしたのは、高校生のほとんどがいろいろな形でアルバイトをしているということです。アメリカ合衆国では、飲酒やギャンブルは別として、法律上満16歳からアルバイトをすることが許可されているからです。グリーンビルのローズ高校では、より条件の良い仕事に就くために、コンピュータなどビジネス関連のプログラムを設けて生徒に開放しているほどです。学校も高校生のアルバイトの積極的な意義を認め、バックアップしているわけです。

(正 解) Q 1 ・ D Q 2 ・ B Q 3 ・ B Q 4 ・ D Q 5 ・ C
 Q 6 ・ A